

令和二年度 統一模試 中学一年冬期テスト (実施時間四十五分間)

国語

注意

- 1 問題用紙は六ページあり、これとは別に解答用紙が一枚あります。
- 2 監督者の指示に従って解答用紙を取り出し、番号と氏名を解答用紙及び問題用紙の決められた欄に記入しなさい。また、解答用紙の「QRコードシールをはる」と書かれたわくの中に、シールをはみ出さないようにはりなさい。
- 3 監督者の「始め」の合図で始めなさい。
- 4 答えは、問題の指示に従ってすべて解答用紙の答えの欄に、はみ出さないように記入しなさい。
- 5 筆記用具は、HBかそれよりも濃^くいものを用い、文字がうすくならないように注意しなさい。
- 6 監督者の「やめ」の合図ですぐにやめなさい。

氏名	
----	--

1 次の文章を読んで、あとの1～5の問いに答えなさい。

私たちのまわりにある食べ物は、すべてもとをたどれば、植物たちがつくりだすものです。野菜や果物などは、もちろん、植物たちがつくりだすものです。でも、「肉や魚は、植物たちがつくりだすものではない」と思われるかもしれません。

しかし、肉は、そのもとをたどると、すべて植物たちがつくりだすものです。□、ウシやブタやニワトリは、主に、草を食べたり、植物からできた飼料を食べたりして育ちます。だから、牛肉も豚肉も鶏肉も、もとをたどれば、植物たちがつくりだすものといっても、差し支えありません。ア

魚も、そのもとをたどると、すべて植物たちがつくりだすものです。イワシやサンマは、水中に生きる小さな魚や微小な生き物を食べて、大きくなります。餌になる小さな魚や微小な生き物は、水中に生きる「植物プランクトン」という生き物を食べて育ちます。

植物プランクトンというのは、その姿をはっきりと観察するには、顕微鏡を使わなければならないほどの小さな生き物です。しかし、自分で栄養をつくって「植物的な生き方」をするものです。植物たちの遠い祖先に当たる生き物です。イ

草食であろうと肉食であろうと雑食であろうと、動物は、植物たちがつくった栄養物を食べて生きています。「植物たちが、自分の栄養を、自分でつくりだしている」ことや、「動物は、植物的な生き方をするもの

を食べている」ことを理解すると、よく理解した人ほど、間違ってしまう質問があります。

それは、「地球上にはじめて生まれた生物は、『動物的な生き方』をするものか、『植物的な生き方』をするものか」という質問です。生物が地球上にはじめて生まれたときには、他の生物はいません。ですから、最初の生物は、他の生物のつくった栄養物を食べることはできません。

そのため、「地球上にはじめて生まれた生物は、動物的な生き方をすることはできない」と考えられます。とすると、その質問に対する答えは、「地球上にはじめて生まれた生物は、植物的な生き方をする生物でなければならぬ」ということになります。

ところが、地球上にはじめて生まれたのは、自分で栄養をつくらぬ、「動物的な生き方」をする生き物だったのです。その答えを知ると、当然のように浮かぶ疑問があります。むしろ、浮かばなくてはおかしい疑問です。

「はじめて生まれた生物は、何を食べて生きていたのか」というものです。その疑問に対する答えは、生物が生まれたころの海にありました。当時の海は「原始の海」とよばれて、現在の海とは、含まれている成分がずいぶん違っていたのです。原始の海があったころの「原始の地球」に思いを馳せましょう。

地球は、今から約四十六億年前に誕生しました。その当時、どんな生物も存在しませんでした。それから約六億年が過ぎたおおよそ四十億年前

に、地球上のあらゆる生物の祖先にあたる最初の生物が誕生したのです。はじめての生物は、原始の海の中で生まれました。「何を食べて生きていたのか」と気になります。ウ

実は、そのころの海は、^②「スープの海」といわれているのです。スープは、45動物の肉や魚介類、野菜に含まれる栄養物を、煮だしたものです。しかし、当時の海が、そのようなものを煮だしたものでないことは明白です。煮だしに使われる動物の肉や魚介類、野菜などは、まだなかったからです。

エ

でも、スープの海とたとえられるのにふさわしい栄養のある物質が、多く含まれていたのです。地球上にはじめて生まれた生物たちは、スープの海に含まれる栄養物を食べていたのです。

(田中修「植物は人類最強の相棒である」による)

(注) 差し支える||ある事をするのにさまたげになる。都合の悪い状態になる。

思いを馳せる||自分と離れているものに思いをめぐらすこと。

1 本文中の□□にあてはまる語として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア だから イ また ウ ところが エ たとえば

2 本文には、次の一文が抜けている。本文中の□ア□□エ□のうち、どこにあてはまるか。最も適当な箇所を選び、記号で答えよ。

だから、「どんな魚も、植物たちを食べて育つ」といえるので

3 — 線部①「地球上にはじめて生まれた生物は、『動物的な生き方』をするものか、『植物的な生き方』をするものか」とあるが、『動物的な生き方』、『植物的な生き方』とはそれぞれどのような生き方か。本文中の語句を用いて、それぞれ十五字以上二十五字以内で、解答らんの書き出しに続けて具体的に書け。

4 次の文は、— 線部②「『スープの海』」について説明したものである。□Ⅰ・□Ⅱに適切な言葉を補え。ただし、□Ⅰは七字で、□Ⅱは四字でそれぞれ本文中からぬき出して書くこと。

現在の海とは成分がずいぶん違い、□Ⅰが多く含まれていた、□Ⅱとよばれる海のことである。

5 本文の内容について説明したものとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア ウシやブタやニワトリは、他の生き物がつくった栄養物を食べて生きているので、その肉は植物がつくりだすものとはいえない。

イ 動物は、植物的な生き方をするものを食べているので、地球上にはじめて生まれた生物は植物的な生き方をする生き物であった。

ウ はじめて生まれた生物は、何を食べて生きていたのかという疑問に対する答えは、約四十億年も前のことなのでよく分からない。

エ 地球上にはじめて生まれたのは、動物的な生き方をする生き物で、その生物たちは当時の海の中に含まれる栄養物を食べていた。

次の文章を読んで、あとの1〜6の問いに答えなさい。

小学四年生の女の子まどかは、祖父が開いている柔道場に通い、柔道の稽古をしている。今日も学校が終わって柔道場にやつてきた。

毎年、秋にある小学生の柔道大会のために、地区の強化選手が選ばれて夏休みに合同練習が行われる。うちの道場から出す強化選手三名を発表すると聞いたとき、私は思わず小さくガツポーズをした。道場の小学生の中では三番目くらいには強い自信があった。いちばん強かった弘毅くんが春から中学生になって、あとの小学生はタケノコの背比べって感じだけれど。あ、違う、何だっけ、何の背比べだったっけ。そんなことを考えていた私は、定一先生の——おじいちゃんの——言葉の意味が理解できなかった。

「駿太郎と、遼、それに彰宏。うちの道場を代表して行くんだから、しっかりと稽古をつけてもらいなさい」

駿太郎くんと遼くんは六年生だ。とびぬけて強いわけでもなかったけれど、この頃急に身体が大きくなって、力もA、それこそタケノコみたいに強くなってきている。

だけど——だけど、彰宏くんは。

たぶん、本人も選ばれると思っていなかったのだ。彰宏くんは一瞬、ぼかんとして、それから道場じゅうに響き渡るような声で、はいっ、と返事をした。ほったが赤くなって、顔にまで元気が張りつめているみたいだった。

私が見ているのに気がつく、彰宏くんはこつと笑った。照れた

り、気を遣ったりするふうがなくて、ほっとする。こつちはこんなに悔しいのに、ばれてないみたいだ。悔しがっていることがばかしくなるようなBだった。

だけど、遼くんが真剣な声でいった。

「定一先生、なんでまどかじゃないんですか。まどかが強いと思うんですけど」

彰宏くんより、とはいわなかったけれど、比べる相手が同じ四年生の彰宏くんであることはみんなもわかっているだろう。

「まどか、どうなんだ」

定一先生が私を見た。答えようとしたら、ぐつと喉が鳴った。

彰宏くんより強い。強かった。でも、暑くなり始めた頃から、勝てなくなっていた。他の子にはいつもどおりに勝っていたから、彰宏くんが強くなったということだろう。それは認める。でも、どうしてなのかわからなかった。ついこないだまで確実に勝っていたのだ。ついこないだまで、というのを具体的に思い出そうとして、もうずいぶん長いこと勝ていなかったのを思い出す。

「——彰宏くんのほうが強いです」

私が答えたら、定一先生がうなずいた。

「わかっていればいいんだ」

それから定一先生は、誰にでも伸びる時期、強くなるときでもあるんだって話をした。だから、焦ることはない、伸び悩んで苦しむときが長ければ長いほど強くなれるのだ、と。

「この道場でも、ずつと一番強かったなんて人はいないんだよ」
ずつと一番。いるじゃん。おじいちゃんだ。

そう思ったけれど、黙だまっていた。おじいちゃんを指すのは無理かもしれないけど、いつかはおじいちゃんの次に強くなって道場の後を継つぎたい。今までは簡単に口に出せていた願いが、喉のどでつかえて言葉になりそうもない。

私はいつ伸びて、いつ強くなるんだろう。どれくらい強くなれるんだろう。

目を上げたら、彰宏くんが見ていた。まじめにまっすぐ私を見ていた。ぜんぜん笑いたい気分じゃなかったけど、ここでさっきの笑顔えがおに
応えなきゃと思つて、がんばつて笑つた。

彰宏くんには気を遣われたくないし、私も遣いたくない。正々堂々と勝負したい。

(小路幸也 宮下奈都「つむじダブル」による)

1 本文中の **A** にあてはまる語として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア ぐんぐん イ じわじわ ウ だらだら エ びしびし
2 本文中の **B** に入る最も適当な言葉を本文中から漢字二字でぬき出して書け。

3 次の文は、——線部①「彰宏くんが強くなったということだろう」について、そう考えた理由を説明したものである。 **I**・**II** に適当な言葉を補え。ただし、 **I** には本文中から十二字でぬき出して書き、 **II** には十五字以内の言葉を考えて答えること。

他の子には **I** のに、 **II** から。

4 ——線部②「うなずいた」とあるが、定一先生がうなずいた理由として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア まどかが、三人の強化選手の決定に納得し喜んでいると思つたから。

イ まどかが、まどか自身の力不足を客観的に捉とらえられたと思つたから。

ウ まどかが、場の雰囲気かたいきを意識して自分の考えを曲げたと思つたから。

エ まどかが、仲間に対する配慮はいりよから強化選手を拒否きよひしたと思つたから。

5 ——線部③「今までは簡単に口に出せていた願いが喉でつかえて言葉になりそうもない」とあるが、その理由を「願い」の内容を明らかにして、二十五字以上三十五字以内で書け。

6 本文中でのまどかの心の移り変わりを表したものとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 期待 ↓ 失望 ↓ 納得 ↓ 不安 ↓ 自省 ↓ 決心

イ 期待 ↓ 不安 ↓ 自省 ↓ 失望 ↓ 納得 ↓ 決心

ウ 期待 ↓ 失望 ↓ 自省 ↓ 納得 ↓ 不安 ↓ 決心

エ 期待 ↓ 不安 ↓ 納得 ↓ 自省 ↓ 失望 ↓ 決心

3

次の1～7の問いに答えなさい。

1 次の——線部①・②を現代仮名遣いに直して書け。

男も女も、くるくるとやすらかに読みたるこそ、あれがやうに
(すらすらと簡単に)
(あの人)

いつの世にあらむと、おぼゆれ。
(いつになつたらなれるのだろうか)
(思つてしまふ)

2 次の(1)～(3)の□に、体の一部を表す漢字一字を入れて、——線部の慣用句を完成させよ。

(1) 彼女の華麗なピアノの演奏に、クラス全員が□を巻いた。

(2) 本校の卒業生からノーベル賞受賞者が出て、私は□が高い。

(3) 練習後も黙々と素振り続ける彼の姿には、□が下がる。

3 次の文について、①・②の問いに答えよ。

家の庭を、黒い犬が元気に走っている。

① この文は、いくつの文節から成り立っているか。

② この文の主語を一文節で書け。

4 次の文の——線部ア～エの中から、敬語の使い方が正しくないものを一つ選び、記号で答えよ。

母からの手紙を先生にお見せして、「明日改めてうかがいますと母がおっしゃいました」とお伝えした。

5 次の(1)・(2)の□に漢数字一字を入れてことわざを完成させよ。

(1) 石の上にも□年……がまん強く辛抱すれば必ず成功することのたとえ。

(2) □死に一生を得る……ほとんど助かる見込みのない危険な状態から、かろうじて助かること。

6 主語と述語の関係が正しいものを、次から一つ選び、記号で答えよ。

ア この企画の問題点は、予算内で完成させるのが難しい。

イ 雨の日には、私は図書館で読書をするにしている。

ウ 満腹だった私は、デザートを兄に頼んで食べてくれた。

エ 私の夢は、オリンピッククに出場してメダルをとりた。

7 次の漢字の中で、楷書で書くとき「はらい」と「曲がり」の両方の筆遣いをふくんでいるものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 月
イ 手
ウ 女
エ 光

4

次の——線部のカタカナは漢字に直し、漢字は仮名に直して書きなさい。

- 1 外国をシサツする。
- 2 悪人をタイジする。
- 3 その土地にお城をキズく。
- 4 体育祭はエンキされた。
- 5 彼は鋭い感受性の持ち主だ。
- 6 握力を測定する。
- 7 都市部で犯罪が横行する。
- 8 海外へ渡航する。

5

「方言で話すこと」について、あなたの考えを、次の(1)～(3)の条件に従って書きなさい。

条件

- (1) 「方言で話すこと」について、あなたの考えと、そう考える根拠となった体験や見聞を書くこと。
- (2) 六行以上八行以下で書くこと。
- (3) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。

